

施策評価調書(26年度実績)

施策コード | I-3-(1)

政策体系	施策名	障がい者が安心して暮らせる地域生活の推進	所管部局名	福祉保健部	長期総合計画頁	37
	政策名	障がい者が地域で暮らし働ける社会づくりの推進	関係部局名	福祉保健部、土木建築部		

【Ⅰ. 主な取り組み】

取組No.	①	②	③
取組項目	サービス提供基盤の整備と 住まいの確保	地域生活への移行促進	文化・スポーツの振興と 社会参加・交流活動の推進

【Ⅱ. 目標指標】

指 標		関連する 取組No.	基準値		26年度			27年度	目標達成度(%)						
			年度	基準値	目標値	実績	達成度	目標値	25	50	75	100	125		
i	相談支援従事者養成数(人)	②	H16	583	1,644	1,651	100.4%	1,750							
ii	各種障がい者スポーツ大会への延べ参加者数(人)	③	H22	5,098	5,260	6,151	116.9%	5,300							

【Ⅲ. 指標による評価】

評価	理 由 等		平均評価
i	達成	障がい者からの相談に応じ必要な支援等を行う相談支援従事者の養成研修を計画的に実施し、研修修了者の総数が目標値を概ね達成した。	達成
ii	達成	大分県障がい者スポーツ大会等の開催によって、障がい者スポーツ活動の促進や県民の障がい者スポーツへの関心の向上を図り、目標値を達成した。	

【IV. 指標以外の観点からの評価】

取組 No.	指標以外の観点からの評価
①	<p>・障がい福祉サービス事業所等の建設や耐震化整備(スプリンクラー設置)に対して補助を行い、サービス提供基盤の整備を行った。</p> <p>H26整備数： 障がい福祉サービス事業所 4施設 スプリンクラー設置 2施設</p>
②	<p>・平成26年度に県障害者自立支援協議会の専門部会として「地域移行専門部会」を立ち上げ、地域移行の促進に向け、関係機関との連携強化等を図った。</p> <p>H26地域移行専門部会開催数 → 3回</p>
③	<p>・各種障がい者スポーツ大会の開催や全国障がい者スポーツ大会への県内選手の派遣の他、各協議団体への支援を行い、競技力の向上及びスポーツを通じた社会参加・交流活動が推進された。</p> <p>H26全国障がい者スポーツ大会選手派遣数 → 47名</p>

【V. 施策を構成する主要事業】

取組 No.	事業名(26年度事業)	事業コスト(千円)	事務事業評価		主要な施策の成果掲載頁
			総合評価	27年度の方向性	
①	共生のまち整備事業	80,000	-	継続	169
②	相談支援従事者等養成事業	2,193	A	継続・見直し	46
③	障がい者スポーツ振興事業	4,900	A	継続・見直し	47

【VI. 施策に対する意見・提言】

<p>○大分県障害者施策推進協議会 (H26.8)</p> <p>・障がい者の地域移行を促進するため、各圏域ごとに24時間365日相談ができる体制を整備してほしい。</p>	<p>○大分県障害者施策推進協議会(H26.8)</p> <p>・精神障がい者が地域で生活するためには、緊急時の対応を含め地域と医療機関との連携が重要である。</p>
--	---

【VII. 総合評価と今後の施策展開について】

総合評価	施策展開の具体的内容
A	<ul style="list-style-type: none"> ・障がい者週間福祉大会や自閉症啓発行事など、あらゆる機会を通じ、障がいや障がい者に対する理解の促進を図る。 ・障がい者の地域生活を支えるための住まいの場の確保や日中活動の場の拡充については、福祉施策と住宅施策などの他の施策との連携を図りながら、大分県障がい福祉計画(第4期)に定める目標値等に基づき計画的に整備する。 ・障がい者の自立生活を支えるため相談支援従事者を計画的に養成するとともに、従事者の質の向上に努め相談支援体制の強化を図る。 ・県障害者自立支援協議会の専門部会として設置した「地域移行専門部会」の活動を進め、市町村と連携し、障がい者の地域移行の更なる促進を図るための検討を行う。 ・精神科病院と地域のサービス事業所等との連携を強化し、退院する精神障がい者の地域へのスムーズな移行を支援する。 ・大分国際車いすマラソン大会や障がい者スポーツ大会の開催などにより、競技スポーツの振興を図る。 ・2020年東京パラリンピックで活躍が期待される選手への支援を行う。 ・障がい者アートを支える体制を整備し、県民と障がい者アートの交流を拡大することで、県民の理解と障がい者の自立・社会参加の促進を図る。